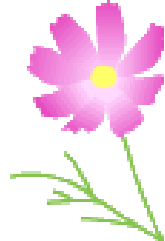




平和のはな つつしん

《第2号》

2015年12月18日
コープさが生協
平和のはなネットワーク
TEL 0952-31-3977



平和のはな学習会

“戦後70年”…………

「今だから聞きたい!! あの戦争は何だったのか?」

第1回「戦前史…総力戦の遂行と国民生活」を開催しました。



70年前、日本はなぜ戦争を始め、どう突き進んだのか?戦後日本は戦争責任とどう向き合ったのか?を考える歴史の勉強会の第1回を12月15日に開催しました。

講師は佐賀新聞の連載「戦後70年企画・刻む佐賀戦時下の記憶」を監修された佐賀大学文化教育学部准教授の鬼嶋淳氏（日本近現代史）にお願いしました。

日本は何故アジア・太平洋で戦争を起こしたのか?開戦の背景、当時の世界情勢、政治情勢を知り、一度始めた戦争を終結することのむずかしさを歴史に学ぶことを中心テーマにお話しいただきました。

【お話のポイント】

■戦争指導者の戦争責任

第一次世界大戦後のワシントン体制・9カ国条約のもとでの国際協調路線、戦争の違法化、民族自決、内政不干渉などの国際的な流れに日本は逆らった。すべての国民・政治家が軍国主義ではなく、当時の指導者の主体的選択で戦争が始められ、また終戦の機会も逸していった。

■総力戦体制がもつある種の「魅力」

国民の意識は、アジアの植民地によって生活向上を期待していた。しかしそれは現地の人々の犠牲に成り立っていた。不況や格差解消を期待させる「社会改革構想」のもと健康増進と国民皆保険もすすめられた。しかし国家総動員法によって国民生活のすべてが戦争に協力させられていく。

■アジア民衆への視座

戦争で亡くなった人の数は、日本人310万人（軍人230万、民間人80万）、アメリカ軍人10万人に対してアジア全体で1900万人とも言われている。日本の戦争責任を考え続けなければならない。

【参加者のアンケートより】

●開戦の背景、世界情勢等詳しく聞けて良かったです。民間人も植民地に期待していた事実も知ることができました。今の政治家にも当時の”戦争指導者の戦争責任”について考え行動してほしいと思いました。

●植民地時代からの流れをわかりやすくお話していただき大変勉強になりました。国民の意識が時代の政策に流されていくのは恐ろしいことと思いました。今の時代にも通じるものを感じ、歴史を学ぶことは大切だと思いました。これからも学んでいきたいと思います。

●イスラム国によるテロ事件が対テロ戦争へ世論を駆り立て、極右が台頭し、イスラム系移民の排斥運動も広がっています。いろいろな国で戦争を知らない世代で憎しみの連鎖がはじまっているように感じます。格差に対する国民不満をうまく戦争遂行に動員していったあの時代と重なります。どうすればこうした悪循環を断てるかを考える学習会を希望します。



学習会には27名が参加

“思いをひとつに!!”

平和について、考え、語り合い、学び合いませんか!!

【平和のはなネットワークメンバー募集中】
月に1回ほど集まります。参加出入り自由!!

●申し込み・問い合わせは・・・
コープさが生協 総務部 組織企画グループ
TEL0952-31-3977 担当 牧まで

